

## 美味しい富山米の生産は、秋の土づくりから！

高品質で美味しいお米を生産するためには、継続的な土づくりが重要です。  
近年、鉄などの微量元素の不足が原因で、**ごま葉枯れ病**の発生が目立ちます。  
土づくり資材や堆肥などの散布を行い不足する養分を補給しましょう。



図. ごま葉枯れ病

### 土づくり資材の施用

～毎年継続して施用しましょう～

- 収穫の際、籾と一緒に多くの養分（ケイ酸）が持ち出されています。
- 下表を参考に土づくり資材を散布し、不足するケイ酸分を補給しましょう。
- ごま葉枯れ病が見られた水田には、鉄を含む土づくり資材を散布しましょう。

土づくり資材の施用量の目安

資材名	10a 当たりの 施用量	成分含有量 (%)		
		ケイ酸	アルカリ分	鉄
有機加里入りシリカロマン2号	80kg以上	20	34	4
シリカロマン	80kg以上	25	45	5
砂状ケイカル	200kg以上	31	48	-
鉄田満太郎	100kg以上	20	26	20

### 有機物の施用

～地力を高めましょう～

○地力が低いほ場では、堆肥等の有機物を施用しましょう。

有機物の施用量の目安（秋施用）

堆肥の種類	10a 当たりの施用量
牛ふん・豚ふん堆肥	1～2 t
発酵鶏ふん	100～150 kg
籾がら堆肥	2 t



堆肥の施用によりリン酸、カリウムを補うこともできます。

### 秋耕しの実施

～秋・春の2回耕起で作土深の拡大を図ろう～

○土づくり資材等の施用後は、稲わらや籾殻の腐熟を促進させるため、秋耕しを行いましょう。その後は、排水溝を掘って、水吐尻にしっかり連結し、排水を良くしましょう。

### 次年作に向けた畦畔除草

～カメムシ類が発生しにくい環境をつくろう～

○秋冬期（11月下旬～12月上旬）や春期（2月末～3月中旬の消雪時）に、畦畔にカソロン粒剤6.7を散布（約500g/100m畦畔）すると、6月ごろまで畦畔雑草を抑え、カメムシの生息密度を下げるができます。

○令和4年度 JA 高岡 「**営農記録ノート**」P44～45 を参考にしてください。

○ご不明な点はJA 高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班(26-8477) までお尋ねください。